

せんきょうし 宣教師エミー・カーマイケル

しゅっせいち きた 北アイランド、ダウ州、ミリスル村

しゅっせいび ねん がつ にち 1867年12月16日

かぞく 7人兄弟の長女

せんきょうし くに に ほん 宣教師として暮らした国：日本、インド

エミー・ウィルソン・カーマイケル (1867-1951年) は、宣教師として日本に滞在し、その後インドに渡りました。インドのタミル・ナドゥ州のドノヴァーで、児童養護施設を開き、宣教本部を設立しました。エミーは、現地の家族がヒンドゥー教寺院に奴隷として捧げた子供達を救済する活動をしたことで有名です。また、人々に神様の愛を伝えることに情熱を注いだことも知られています。エミーは、55年間インドで活動し、そこでの宣教活動について、多くの本を書きました。

さいしょ せんきょうち に ほん む ふね きたな なか むし 最初の宣教地である日本に向かう船では、汚い船の中や虫を見ても快活にふるまうエミーを見て、船長がキリスト教に改心しました。



せんきょうかつどうちゅう かずかず ごんなん しょうがい の こ 宣教活動中、エミーは数々の困難や障害を乗り越えました。その内のいくつかを紹介しましょう。

しょうがい 障害：インドでの布教活動には、危険が伴いました。ヒンドゥー教のカースト制度¹の高い階級に属する人が改宗するたびに、大きな迫害が起こりました。ヒンドゥー教の地域社会は、手段を選ばずクリスチャンをことごとく迫害したのです。ミッションスクールは、閉鎖に追いやられたり、焼き討ちにあったりしました。教会は破壊され、宣教師達は散々なぐられ、次から次へと訴訟が起こされました。

くふく 克服：当時、大部分の宣教師達は、西洋人らしい格好をしていないのは恥ずべきことだと思っていました。エミーは、現地のインド人と同じ身なりで旅をし、布教活動をしました。肌を染め、サリーを着ると、ヒンドゥー教徒とみなされ、それが、布教活動を成功させる大きな役割を果たしたのです。

「一員となる」ことについてエミーが学んだ教訓

使徒パウロは、かつてこう言いました。「私はすべての人に対して、すべての人のようになった。なんとかして幾人かを救うためである。福音のために、私はどんな事でもする。私も共に福音にあずかるためである。」(コリント人への第一の手紙 9:22-23 参照)

エミーもまた、パウロの言葉の大切さを学びました。日本にいた時、まだ日本語は分からなかったものの、それでもイエス様のことを伝えるにでかけた時のことです。通訳のみさきさんがエミーに、着物を着てはどうかと提案しましたが、エミーは西洋服のままで行くことにしました。ふたり ぶくろい かんしん びょうき ろうふじん 二人は、福音に関心がありそうな病気の老婦人を見舞いましたが、主を受け入れたいかどうかをたずねようとした時、老婦人はエミーのファー手袋を見て、それは何かとたずねました。結局その女性は、キリストを救い主として受け入れることはなかったのです。



いえ かえ くるま なか
家に帰る車の中で、エミーはくやし涙を流しました。もう決して、
こんなちっぽけなことのせいで大きな失敗は犯すまいと、エミーは
誓いました。それ以来、イエス様について伝えるために人に会う時は、
じもと ひとたち おな ふく き い
地元の人達と同じ服を着て行きました。



しょうがい
障害: エミーには、神経痛という持病がありました。そのせいで体は弱く、
いた ともな なんしゅうかん
痛みを伴い、何週間もねたきりになることもしょっちゅうありました。

こくふく びょうき
克服: 病気のせいで何ヶ月もねたきりになると、イエス様はエミーに、
ひとたち あい し
インドの人達がイエス様の愛を知ることができるように祈ることを、たび
しめ たび示されました。その祈りが、もっと多くの人達が福音を受け入れるのに
やくだ
役立ったのです。

しょうがい
障害: インドには、子供達を奴隷としてヒन्दウー教寺院に捧げるとい
ふる
古いきりがありました。中には、貧しいせいで生まれてきた女の赤ちゃん
せわ できず す かに
を世話できずに捨ててしまう家族もありました。(男の子は肉体労働を
おとこ こ にくたいらうどう
して家族のためにお金をかせげるので、女の子よりも価値があると考え
かね
られていました。また、娘が結婚すると、夫になる人の家族に持参金を
むすめ けつこん おつと ひと し さんきん

はら
払わなければならないので、それも、貧しい家族には負担となりました。)

こくふく かつどう だいぶふん
克服: エミーの活動の大部分は、このような、寺院に捧げられた子供達を救い出すことでした。ある時、エミー
こども ゆうかいようぎ たいほ
は子供の誘拐容疑をかけられ、逮捕されて7年間の懲役刑を課されそうになったことがありました。けれど
ねんかん ちようえきけい か
も、エミーは刑務所に送られませんでした。「刑事訴訟棄却」という電報が届いたのです。理由は全く明か
けいし そしよききやく でんぽう とど
されませんでした。神様を知る人達は、その決定に神様が関わっていたであろうことを知っていました。
かみさま し ひとたち けつてい つか

い あいだ にん いじょう こどもたち いくし ほうき ぎゃくたい きゅうしゆつ
エミーの生きていた間に、1,000人以上の子供達が、育児放棄や虐待から救出されました。エミーは救出
された子供達から「アンマ」と呼ばれていました。タミル語で「お母さん」という意味です。彼女の活動は
よ かのじよ かつどう
しばしば危険を伴い、緊迫したものでしたが、エミーは、自分や自分の保護下にある子供達を守ってくださる
しぶん ほ ごか
という神様の約束を、決して忘れませんでした。
かみさま やくそく けつ わす



脚注:

1 カースト制度: 生まれと職業と富の区別によって決められる社会的身分制度